

## 日本天文学会評議員候補者選挙の結果の報告

昭和51年1月20～2月18日の選挙により選出され、昭和51年度通常総会に推薦される評議員候補者(15名)の名簿を、評議員選挙施行細則第7条に基づき次の通り発表する。

### B 組評議員候補者名簿

海野和三郎, 大木 俊夫, 大沢 清輝, 海部 宣男, 川口 市郎, 古在 由秀, 坂下 志郎, 桜井 隆, 杉本大一郎, 関口 直甫, 成相 秀一, 林 忠四郎, 平田 龍幸, 村山 定男, 森本 雅樹

なお、有権者総数 454 名, 投票人数 247 名 (投票総数 2,323 票, 内 無効票 10 票) であった。

(以上)

昭和51年2月20日

選挙管理委員会

### 学会だより

#### 科学研究費補助金配分審査委員

日本学術会議研究費委員会より標記の候補者の推薦の依頼があり、本学会として評議員の書面投票により推薦していたところ下記の方々が学術審議会の専門委員として文部省より発令になりました。

第1段: 守山史生, 加藤正二(以上新任), 須川 力 (留任)

第2段: 海野和三郎 (新任)

#### 天文学研究連絡委員会

日本学術会議天文学研究連絡委員会の第10期委員として次の方々が決まりました。

海野和三郎・田中 春夫・弓 滋・赤羽 賢司・大沢 清輝・林 忠四郎・末元善三郎・高窪 啓弥・川口 市郎・成相 秀一・小暮 智一・北村 正利・高瀬文志郎・森本 雅樹・守山 史生・小田 稔・飯島 重孝・高倉 達雄・青木 信仰・河鱈 公昭・古在 由秀

なお委員長は大沢清輝氏と決まりました。

#### DST への期待

以上のように DST は世界各国の最近の太陽望遠鏡の粋をあつめ、独自に研究開発された最新型の望遠鏡である。マイクロ太陽物理学の黄金時代に向かって、DST がその本領を充分に発揮することを期待している。高分解太陽像を生かした観測対象には、粒状組織・彩層微細構造・黒点暗部輝点などがある。低散乱太陽像は黒点・彩層・プロミネンスの観測に偉力を発揮する。吸収線輪郭・速度場・磁場の研究には高分散・高純度の垂直分光器が活躍するだろう。フレア・サージ・スプレーなどの爆発現象には広視野・多波長域の水平分光器の出番である。

DST は4年計画で1978年度に完成し活動を開始する予定である。現在はいわば、DST 君の受胎2-3カ月

にあたり、発注先の西独カール・ツァイス社(オーバーコッヘン)では着々と設計製作が進められている。飛驒天文台では設置地点決定の最終観測が行われている。DST と同じ高さの鉄塔を候補地2カ所に建て、太陽シーイングの良否を判定する気象観測である。塔先端における風向・風速の常時観測のほか、先端から5mおきの気温・温度の微変動の同時測定を行っている。77年度工場検収をおわり横浜に向けて出港する頃には、飛驒天文台では塔と観測室の建設が始まるはずである。78年夏には現地組立ての段取りとなる。

国際天文連合(IAU)では、10年振りの太陽極大期にあたって、79年4月から太陽活動現象の国際共同観測(Solar Maximum Year)を計画している。私達のDST君がタイミング良く78年に誕生することは全くの幸運である。